

システムアーキテクト 講評

【総評】

全体を通じて、緻密に考える力が求められる内容でした。午前Ⅱ試験では、基本的な知識を求める問題と最近の技術動向を捉えた問題が、適度な比率で出題されました。午後Ⅰ試験では、複雑な業務要件や制約条件を、丁寧に読み取って理解する力が求められる問題が出題されました。午後Ⅱ試験では、汎用性の高いテーマが出題されましたが、それだけに経験や能力が論述に反映されやすい試験でした。

【午前Ⅱ】

重点分野であるシステム開発技術から 11 問が出題されました。同じく重点分野であるセキュリティは 5 問が出題され、要求される技術レベルが強化されています。新作問題のうち目新しいテーマとして、サーキットブレーカー(問 3)、アスペクト指向プログラミング(問 7)、純粋関数型言語の参照透過性(問 8)、HTTP 応答のステータスコード(問 25)がありました。それ以外は、過去問題の再出題や定番の用語の出題でした。

【午後Ⅰ】

前回までであった組込みシステム 1 問の出題はなくなり、業務システムから 3 問の出題となりました。前回同様に各問の分量は各 5~6 ページあり、多めの分量が定着しています。問 1 はシステム統合、問 2 はシステム改善、問 3 はシステム新規開発で、システムライフサイクルの異なるフェーズからバランスよく出題されています。

<午後Ⅰ問題テーマ>

- 問 1 システムの統合
- 問 2 会員向けサービスに関わるシステム改善
- 問 3 学習塾の通知システム

【午後Ⅱ】

午後Ⅰ試験と同様、今回から組込みシステムの出題がなくなり、業務システムから 2 問の出題となりました。問 1 が先端技術について、問 2 が従来技術についてで、テーマのバランスが取られています。問 1 は、AI や RPA といった最近注目されている先進技術です。問 2 はバッチ処理であり、様々なシステムで行われる処理です。どちらも分かりやすいテーマで幅広いシステムを題材とすることができ、論述しやすかったといえます。

<午後Ⅱ問題テーマ>

- 問 1 人手によってしか実現できないと考えていた業務への先進技術の適用について
 - 問 2 バッチ処理の設計について
- 以上